

たと 譬えは、こうべ 振 髪 揺
 るぐ。心はたらけば身うご
 く。おおかせ 風 吹けば、そうもく 静
 ならず。だい ち 動 たいかい
 さわがし。きょうしゅしゃくそん
 かし奉れば、ゆるがぬ草木
 やあるべき、さわがぬ水や
 あるべき。

(御書新版1610ページ・御書全集1187ページ)

通解

たとえば、頭を振れば、髪が揺
 れる。心が働けば、身体が動く。
 おおかせ 風 吹けば、そうもく 静
 大風が吹けば、草木も揺れる。
 大地が動けば、大海も荒れる。
 同じように、きょうしゅしゃくそん
 を動かせば、揺るがない草木が
 あるだろうか、さわがぬ水があ
 るだろうか。

決意を込めた祈りから出発

よくわかる解説

みな 皆さんこんにちは、レオです。今月も御書を学び、大成長の日々を送ろう！

今回学ぶ「日眼女造立釈迦仏供養事」は、1279年(弘安2年)、日蓮大聖人が身延で著され、鎌倉に住む門家・四条金吾の妻である日眼女に送られたお手紙です。

日眼女は、くなん 苦難に屈せず大聖人をお守りし、しんこう 信仰を貫いた門下です。日眼女はこの年、厄年に当たっていました。厄年は災難に遭う年と言われており、彼女は当時の一般的な慣習に従い、大聖人に真心の供養を行ったのです。大聖人は、厄年の備えといっても、どこまでも深い信心に立つことが大事であると、彼女を励まされます。

今回の御文では、さまざまな例えを示した上で、題目を唱え、「教主釈尊」という仏を揺り動かせば、しよてんぜんじん 諸天善神(法華経を実践する者を守る働き)が必ず動くと思わせます。私たちの実践で言えば、万人成仏の根源の法が顕された南無妙法蓮華経の御本

尊に題目を唱えることです。つまり、御本尊に真剣に祈ることで、自身の生命を変え、環境も変えていけるんだ。

みんなは、目標に向かって挑戦している時、壁にぶつかったり、思うようにいなくて自信をなくしたりした経験はあるかな？ 僕はそんな時、唱題に挑戦するんだ。すると、それまでの“自分には無理かもしれない”っていう下向きな心が少しずつ晴れて、“必ず目標を達成してみせる！”と、強い気持ちが湧いてくるんだ。そして、その目標を達成するために、どうすればいいのか、考えながら行動する。そしてまた祈る。この“勝利のリズム”で、より良い方向に進むことができるよ。

池田先生は祈りについて「“神頼み”や“運任せ”ではない。『必ず成就してみせる』という誓いと行動の出発点です。不屈の祈りと地道な努力で、希望の未来を開いていくのです」と、つぶっています。

毎日の決意の祈りが、勝利の道への第一歩。信心根本に、挑戦の日々を送ろう！